

1 自己評価及び外部評価票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2070501065		
法人名	特定非営利活動法人 心		
事業所名	グループホーム こころ		
所在地	長野県飯田市松尾上溝6301番地1		
自己評価作成日	平成29年11月25日	評価結果市町村受理日	平成30年2月28日

※事業所の基本情報は、公表センターで閲覧してください(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/20/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2070501065-00&amp;PrefCd=20&amp;VersionCd=022">www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/20/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2070501065-00&amp;PrefCd=20&amp;VersionCd=022</a>
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構 長野県事務所
所在地	長野県飯田市上郷別府3307-5
訪問調査日	平成29年12月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成29年9月に増築・改修工事を行い、入居者の皆様の安全を考え、2階にあった3部屋を1階に移して、生活空間をすべて1階にすることで住み良くなりました。また、共同空間の居間を広く天井を吹き抜け風にして、さらに明るくなりました。私たち「こころ」では、自宅にいた時と変わらない生活を送っていただけるように努めております。そして、ほとんどの入居者の皆様がここで終末期を自然体で迎えられるよう、職員全員で日々努力しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

平成17年3月に木造2階建ての民家を改築した建物で発足したこのグループホームは、1階に6部屋、2階に3部屋で、居間兼食堂はテーブルや椅子を置くと、利用者との間を移動しづらいほど狭かった。この度の増築・改修で、2階の3部屋を1階に移動し、トイレも増やし、また、居間も広く、明るくして、車椅子でも移動でき、さらに安全で快適な生活を送ることができるようになってきた。そして、発足当初からの利用者が2人とわずかになって、このグループホームもご多分にもれず高齢化・重度化が進んできているが、職員の利用者と共に生活していく姿は常と変わりなく、こころより任せられる「終の棲家」となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。ユニットが複数ある場合は、ユニットごとに作成してください。

ユニット名( )		項目		項目	
		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)			取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23, 24, 25)	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目: 9, 10, 19)	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18, 38)	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2, 20)	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目: 36, 37)	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (11, 12)	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目: 30, 31)	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目: 28)	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない			

自己評価および外部評価票

※「自己評価の実施状況(太枠囲み部分)」に記入をお願いします。〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を共有しながら、入居者様も職員も日々を「共に」過ごしている。	パンフレットも一新し、「共に笑い、共に楽しみ、共に悲しみ、共に生きる」という理念を表紙の先頭に掲げて、一層の意気込みが伝わってくる。職員はふだんの利用者との生活や干し柿作りをしたり、誕生日を祝ったり、亡くなった方を弔ったりすることなどを大切にすることを通して、理念を実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方に運営推進会議に来ていただいたり、地区行事があれば参加したりして交流している。	同一法人で、すぐ近くにあるサービス付き高齢者向け住宅との合同で、ボランティアのオカリナやフラダンス、歌などを聞いたり見たり、ツアーオブジャパンの自転車競技を見物に行ったりして地域の方々との交流を楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年数回、ヘルパーの初任者研修生や、職場体験にくる中学生に認知症を理解していただけるよう、支援の方法を伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	グループホーム内のできごとや入居者様の状態、困りごとなどを報告し、民生委員や地域包括センターの職員、地域の方からのアドバイスや意見を聞き、入居者様などへのサービス向上を図っている。	地域包括支援センターの職員、民生委員、地域の方や、参加できる関係者を交え、年6回の運営推進会議を開催している。この話し合いの中で、帰宅願望の利用者への対応について連携して解決することができた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業者連絡会やグループホーム連絡会などに出席し、情報の共有を図り、協力体制を構築している。	地域包括支援センターの職員には常に運営推進会議に出席、参加してもらい、事業所の実情や利用者のケアについての情報を共有してきている。また、「ころこ通信」を毎月発行し、利用者家族ばかりではなく、地域包括支援センターの職員を含む運営推進会議のメンバーにも配布し、理解を広げている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議等、拘束にあたるか否かの話し合いもできている。身体拘束が必要な時があれば家族からの同意書を得るようにしている。	現在身体拘束を行っている事例はない。身体拘束をしないケアや虐待防止等の研修会に参加し、その職員から報告してもらい、実践に活かすようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議、もしくは研修会があれば個々に参加していただき、注意・防止を行っている。		

グループホーム ころ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人の入居者様がいる時には、その制度等のことを職員と勉強したい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前面談の時等、不明な点がないよう説明をしている。また、入居後もフォローできるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者が現場にいることが多く、家族からの意見や要望等があった時には、迅速に反映できるようにしている。	ふだんから利用者の家族からの意見や要望が出やすいような雰囲気を作って、相談窓口を管理者一本して、その場で受け取り、すぐに職員に伝えるなどして対応するようにしている。	利用者の家族の意見や要望について、共に共有できるような場面や方法を工夫することが望まれる。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は現場に多くいることがあるので、職員の意見や提案を迅速に反映することができる。また、必要時は法人の理事長へ話し、反映させている。	月1回、朝の9時から約1時間、職員全員が集まって話し合う職員会を開き、管理者は司会をして、職員の意見や提案を聞き、反映できるようにしている。行事の計画、ケアの確認、困っていることなどを話し合うことで話しやすく、分かり合えると職員は答えていた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己研鑽をしていただき、更なる向上心を持って仕事ができるよう就業環境を整備している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	多くの職員が研修に参加できるよう取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	圏域のグループホーム連絡会に参加し、研修会を通じて報告し、サービス向上につなげている。		

グループホーム ころ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安なことがなく、「ころ」で安心して生活ができるよう、関係づくりに注意しながら、信頼関係の確保に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	「ころ」での生活に不安がないよう、面会時等に声をかけ、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族が負担にならないよう、他のサービスも踏まえ支援できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	苦楽を分かち合えることに重きをおき、輪を持って過ごせるよう関係づくりに注意をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の思いも理解し、入居者様本人を共に支えていけるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでの関係を保てるよう、外出等の支援をしている。	家族の意向や本人の希望を聞いたりして、利用者がお墓参りに行ったり、結婚式や一周忌に出たり、実家に戻って医者に行ったりできるようにして、これまでの関係が保たれるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の間で孤立がないよう、職員が中立的立場に立ち、支援をしている。		

グループホーム ころこ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、訪ねて来た時にはその後の様子を聞いたり、家族に出会った時には声掛けをしたりして、これまでの関係を大切にしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の申し出を聞き、買い物、自宅帰省などの支援を柔軟に対応をしている。	希望や申し出を大切に、近くに買い物に行ったり、自宅に帰ったりできる利用者もいる。しかし、日常の生活が安定してきている利用者は、本人の思いを表すことが少ないので、これまでの経過を大切にしている。「個人ファイル」に記録し、介護計画に活かすようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や、相談員また当時の介護支援専門員などから、情報を得るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	「個人ファイル」の介護記録など使用し状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	「個別ファイル」や「日々の申し送り」などを基に、職員会議等において、職員と話し合い、現状に即した計画を作成している。	利用者の本人支援は家族支援につながる、という考えを基に、「個人ファイル」の介護記録や「業務日誌」の申し送り事項を参考に、職員間で話し合い、介護計画を作成している。また、利用者によっては早めに介護計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	「できること」「できないこと」の把握に努め、職員間で共有するように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれるニーズに対し、対応できるものは柔軟に支援をしている。		

グループホーム ころ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方の慰問などを活用しながら、娯楽を楽しんでいただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	状態変化などある場合は、かかりつけ医の指示を受け、必要な医療が受けられるよう、関係を構築している。	家族と相談し、かかりつけ医に往診してくれるよう依頼している。地域の大病院を中心に、かかりつけ医と連携しているので、看取りの時期には往診してもらったり、訪問看護も来てもらったりできるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	准看護師と相談しながら必要な医療が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院でのカンファレンスに参加したり、電話での情報交換をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に本人や家族と確認し、また、重度化した際も再確認をし、かかりつけ医と連携しながら、本人らしく最期を迎えられるよう支援し、また取り組むことができている。	入所時に終末期に向けた話し合いを家族と行い、看取りの取り組みができることを確認している。このグループホームでは重度化が進み、この2年間に5人の利用者の看取りを行ってきた。最期を利用者とともに職員も見送り、家族から感謝されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員会議等で緊急時の方法を確認し、職員一人ひとりが理解するよう心がけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	通報装置の訓練や呼び出し訓練等を行い、職員それぞれが理解するよう心がけている。	平成29年9月に、通報訓練などを行ったが、その後、改修工事を終えてから新しい居室となった時点での避難訓練はまだ行ってはいない。平成30年2月に、同一法人のサービス付き高齢者向け住宅と連携して避難訓練を行う予定である。	増築・改修工事後の避難訓練を実施し、その課題を見出し、新しい計画を立てることが望まれる。

グループホーム ころ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳を損ねない言葉かけに留意して、入居者様と接している。	「ちゃん」付けでなく「さん」付けを基本とし、ゆっくり、はっきりとした言葉かけに留意している。また、利用者が自己決定しやすいように「どうします？」と声かけし、利用者一人ひとりの個性や誇りを大切にして対応できるようにしている。不適切な場面があれば、管理者がすぐ指導するようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉の最後に「どうします？」と自己決定ができるように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に、声かけなどを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	選択肢を用意し、選んでいただくよう努力している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの趣向を大切に、料理方法を変えたりしている。片付けなどしていただける方には、お願いをしている。	食事のメニューは、その日の冷蔵庫にある食材を使って考えている。また、利用者その人に合わせて食器を揃えたり、肉か魚か、味付けの濃さなど、調理方法を変えたりしている。当日も、いつものように利用者は職員と一緒に落ち着いて、静かに食べていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分等、必要量が十分摂取できていない方等には別メニューにする等工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりにあった口腔ケアを行い、配慮している。		

グループホーム ころ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その人にあった排泄方法を見だし、自立に向けた支援ができています。	利用者のそれぞれの状況に合わせて、リハビリパンツやオムツ、そしてパットを使ったりしている。また、居室内にポータブルトイレを置いて、使用している利用者もいる。利用者の排泄の自立に向け、パンツの上げ下げ、お尻の拭き取りなど、見守り、確認して、介助を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の方法を探し、服薬管理等で支援をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の気持ちを優先し、それぞれの気分が入浴ができるように声かけをしている。	3日に1回ペースで入浴を楽しみにしている。入浴をいやがる利用者にも、声かけしてもらい、健康観察を行うようにしている。利用者の重度化が進み、介助者無しは1名、介助者1人は7名、介助者2人は1名である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれのペースにお任せをし、安眠ができるよう支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ケースを使用する等、飲み忘れがないよう工夫し支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの趣味趣向や、洗濯物たたみ、絵描き等ができるよう支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望があれば、それにそって外出したり、行事に出かけたりするように支援している。	ふだんは利用者の希望にそって、近所に行く物に行ったり、散歩したりしている。そして、同一法人のサービス付き高齢者向け住宅に行き、いろいろな行事を楽しんでいる。また、室内で歩行訓練をしてリハビリをしたり、本を読んだり、歌を歌ったりして気分転換をしている。	

グループホーム ころ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の能力を理解して、買い物で使っていたり、中にはお金の管理をしていただいたりしている人もいます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書いて出したり、電話を交代したりする等の支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活空間をその季節折々の飾りで、季節感が感じられるようにする等、工夫している。	増築の結果、玄関や廊下が広くなり、居間も広がって車椅子で動くことができるようになった。また、トイレも増え、使いやすくなった。そして、家具の配置や飾りつけもすっきりして、季節感が感じられ、利用者が安心して過ごせる共用空間になってきている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれの居室に行ったり、話ができるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅の物を極力持ってきていただき、過ごしやすいように努めている。	これまで2階にあった3部屋を、1階の北側に移して、安全に移動ができるようになった。しかし、移転直後に、利用者が新しさなどに混乱し、けががあったことは残念であった。現在は落ち着いて過ごすことができている。居室は前の入居者が残っていた家具などを有効に利用している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全な環境づくりを心掛けている。		